

藤野町で発見されたモリアオガエルについて

新 井 一 政

Forest Green Frog *Rhacophorus arboreus* Found
in Fuzino-machi, Kanagawa Prefecture.

Kazumasa ARAI

モリアオガエル *Rhacophorus arboreus* は、日本固有の樹上性のカエルである。このカエルは、繁殖期には水面上に突出した樹の枝に白色球形のアワ状卵塊を産みつけ、ふ化した幼生（オタマジャクシ）は水中に落下して成長するという特異な産卵習性をもつ。モリアオガエルの生息地は、天然記念物に指定されている所も少なくない。

本種の分布記録は、本州の総ての都府県と、四国

（徳島県・愛媛県）、九州（熊本県・大分県・福岡県・宮崎県）におよぶ。しかし、神奈川県および四国、九州でモリアオガエルが確実に生息しているか否かは疑わしく、詳細な調査がまたれている（金井, 1972・大野, 1975）。

神奈川県では、これまでにモリアオガエルの生息地として、足柄下郡箱根町（岡田・河野, 1924）、三浦郡神武寺山（並木, 1935）、川崎市東生田 滝沢池（高

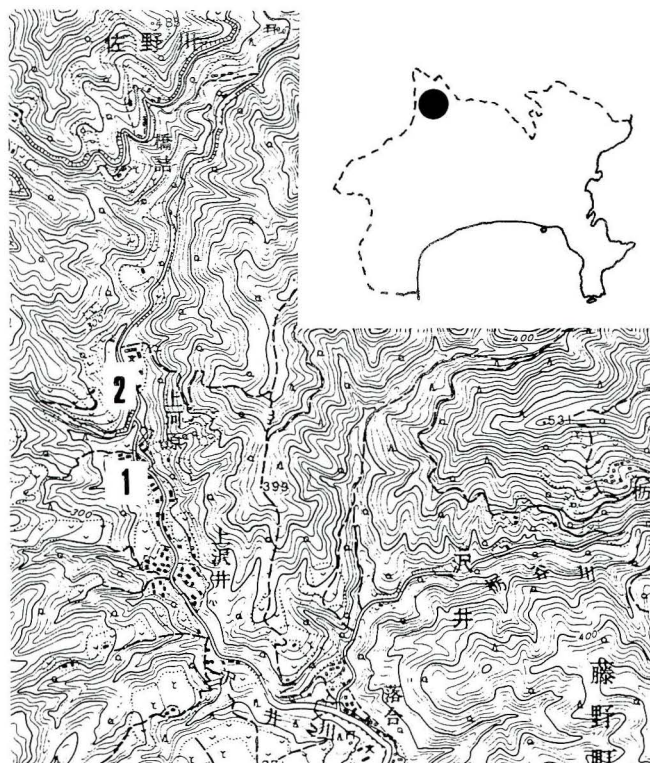


図1 モリアオガエルの生息確認地点。
1では卵塊、幼生、2では成体を
確認した。地図は国土地理院発行
の2万5千分の1地形図「与瀬」
を使用した。



図2 水田脇のウメの木に産卵された卵塊（矢印）



図3 幼生のふ化はほぼ終了し、卵塊（矢印）はすでにくずれている。



図4 水田中に見られたモリアオガエルの幼生

橋, 1958), があげられている(大野・1975)。しかし, 箱根の爬虫・両生類を調査した, 高島・田代(1962)は, —かつて箱根産として報告されたものにモリアオガエルがあるが詳しい記録ではなく, その産地も明確を欠き又その後箱根からは採集されたこともないので, 箱根のリストから抹殺して置く事が妥当のように思う。—と, この地方のモリアオガエルの分布を否定し, 柴田(1968)も同様な見解をとっている。また,

三浦郡(現逗子市)神武寺山および川崎市東生田滝沢池についてはいづれも, 大野(1975)はその報文の中で, それぞれの記録の不確実性を指摘すると共に, 他種(シュレーゲルアオガエル)と誤認した可能性が強いとする見解を示している。さらに, 神奈川県における野生生物の宝庫ともいえる丹沢山地においても, モリアオガエルの分布は確認されていない。(松井・柴田, 1964)。



図5 佐野川小学校に保管されていた卵塊

筆者は、1982年7月2日、神奈川県津久井郡藤野町において、モリアオガエルの卵塊、幼生、および雄の成体を確認した(図1)。神奈川県において本種の確実な生息地が明らかにされたのは今回が初めてと思われるのでここに報告する。

生息状況

1. 藤野町佐野川・上河原地区の水田(標高240m)

水田脇の樹高4.5m程のウメの木に産卵された2つの卵塊が認められた。

2つの卵塊は15cm程の間隔で並んでおり、共に地上からの高さは約2m、水田のふちから約20cm水田内に張り出した位置にあった(図2)。水田の所有者によると、6月26日に卵塊を発見し、その頃、付近の他のウメの木でカエルの鳴き声を聞いたという。

調査した時点においては両方の卵塊共ふ化がほぼ終了しており、形はくずれ(図3)、内部に残っている幼生もごくわずかであった。卵塊の下の水田(水深約5cm)には体長1.3cm程の幼生が多数認められた(図4)。

2. 藤野町立佐野川小学校(標高260m)

藤野町教育委員会によると、第1の地点から北へ約400m離れた佐野川小学校の校庭西端にある理科観測用の池で、毎年モリアオガエルの産卵が見られるという。この池はコンクリート製で面積は約5m²水深は約30cmである。池の上にはサクラの枝が池全体をおおうように茂っている。



図6 モリアオガエルとの成体(♂)

同校々長によると、本年は6月中旬にモリアオガエルの産卵があった(1卵塊)が、卵塊は強風のために地上に落下してしまったとのことである。その後、児童の観察用に父兄が採集してきた卵塊が保管されていた。この卵塊は直径約15cm、表面は滑らかで淡い褐色を帯び、産卵後4～5日程度経過したものと思われる(図5)。また、調査中に池の上約3m、直径2cm程のサクラの枝にいるモリアオガエルの雄の成体(図6)を発見した。この個体は体長約6cm、腹面は濁ったバフ色、背面は明るい緑色で赤褐色の斑紋があった。

この度の調査によって、神奈川県津久井郡藤野町佐野川においてモリアオガエルの卵塊、幼生、成体が発見され、この地に本種が生息することが明らかになった。

藤野町におけるモリアオガエルの発見は、本種の産卵習性を記録したNHKのテレビ番組を見た地元の方から寄せられた情報がきっかけとなった。金井(1972)も指摘しているように、本種の生息地では卵塊や大型のアマガエルの存在は古くから知られているが、それがモリアオガエルであることに気付かないでいる場合が多いのではないであろうか。事実、佐野川のモリアオガエル発見が新聞紙上で報導されると、藤野町の各地から本種に関する情報が数多く寄せられた。今後の調査によって、津久井郡のかなり広い範囲にわたってモリアオガエルの生息が確かめられることと思う。

終りに、この報告をまとめるにあたって次の方々にお世話になった。神奈川県津久井地区行政センターの平片忠一県民部長、藤野町企画財政課の八木久雄課長

補佐，藤野町教育委員会の方々には，情報の提供並びに現地調査の機会を与えてくださった。神奈川県文化財保護課の高桑正敏主事には，調査の全般にわたってご協力いただいた。なお，本文中に使用した写真は全て氏の撮影によるものである。また，神奈川県立博物館の中村一恵主任学芸員には適切なご助言をいただいた。深く感謝の意を表する。

文 献

金井郁夫 1972 モリアオガエルの分布と生態メモ.
東京都高尾自然科学博物館研究報告，(4)
27-42.

松井孝爾・柴田敏隆 1964 丹沢の爬虫，両棲類，丹沢大山学術調査報告書，355-358.

大野正男 1975 千葉県指定天然記念物清澄のモリアオガエル保護増殖事業報告書(II)，1-40，千葉県教育委員会.

柴田敏隆 1968 丹沢の脊椎動物. かながわの自然，(7) 5-8.

高島春雄・田代道弥 1962 箱根の爬虫・両棲類. 神奈川県博物館協会会報，(9) 18-20.

(神奈川県立博物館)